産業労働常任委員会

令和７年度特定テーマに関する調査研究報告書

１ テーマ

観光振興による兵庫経済の活性化について

観光産業は、地域経済と雇用を支える基幹産業であり、兵庫県経済の発展にとってもその振興を図ることは需要な取り組みである。

コロナ禍を経て、ポストコロナ後、観光産業は持ち直しの動きを見せている。加えて、４月に開幕した 2025 大阪・関西万博や神戸空港の国際化などにより、今後ますますの観光客の流入が見込まれる。

このような時期を捉え、新たな観光ビジネスやインバウンド施策、また、国際交流の視点も踏まえながら調査を行い、今後の観光振興施策による兵庫県経済の活性化について、提言する。

２ 調査・研究の内容

（１）当局からの取組聴取

① 開催日等

ア 閉会中の継続調査事件「兵庫観光の振興について」

○ 開催日 令和７年９月 16 日（観光振興課長）

○ 場 所 第４委員会室

イ 閉会中の継続調査事件「兵庫五国への誘客促進について」

○ 開催日 令和８年１月 16 日（観光交流官）

○ 場 所 第４委員会室

② 主な意見等

（令和７年９月 16 日：閉会中の継続調査事件）

・観光消費額の目標達成に向けて欧米豪からの観光客誘致強化の必要性について

・兵庫県の強みを生かしたゴルフツーリズムに関するインバウンド誘致施策の可能性について

・主要観光地以外の振興策としてマイクロツーリズムの推進の重要性について

・県立大学としての芸術文化観光専門職大学と連携した但馬地域に限らない県全体の観光振興に関する取組の必要性ついて

・観光施策の更なる高度化に向けて観光客の決済・通信データの取得・分析・活用の必要性について

・日帰り観光客の利用データの取得の難しさについて

・県内市町の観光基本計画と県のひょうご新観光戦略の整合性について

・ＩＲとの差別化等を踏まえ地域循環型観光を促進するためのマイクロツーリズムの重点施策化の可能性について

・市町・地域における観光施策に対する本庁・県民局の関わり方について
・県民局・市町担当者への研修・勉強会の有用性について
・日本との関係が深い台湾からの観光客の最新の傾向等について
・日本の文化や伝統芸能を生かしたインバウンド誘致施策の可能性について
・インバウンド周遊ルートに対応し神戸空港を出入国拠点として利用促進するための広域連携施策の必要性について
・オーバーツーリズムである京都・大阪から本県への観光客誘導に向けた行政間連携の必要性について
・海外ＯＴＡを活用したプロモーションの取組状況について
・マップエンジン最適化の活用状況について
・宿泊単価低迷の要因の一つであるインバウンドの素泊まり需要への対応について
・宿泊施設における料理長の退職等の人手不足への対応について

（令和８年１月 16 日：閉会中の継続調査事件）
・神戸空港等を活用した東南アジア向けの観光戦略について
・東南アジアからの誘客促進に向けたニーズ調査の必要性について
・観光ＤＸの推進に係る新たな税制導入の検討の必要性について
・県内観光入込客数、宿泊者数等の傾向や分析について
・訪日外国人の本県延べ宿泊者国籍別内訳の傾向や分析について
・淡路島の国生み神話、地域の偉人等の歴史、文化を生かした観光コンテンツの高付加価値化について
・インバウンド増加等に伴う観光地の物価高騰により既存の国内旅行者に生じる影響を踏まえた施策展開の重要性について
・観光人材不足の状況下における有償ローカル・スルーガイド等の人材育成の重要性について
・県内市町におけるアニメツーリズムの取組に対する支援状況について
・インバウンドを対象としたアニメツーリズムに関する広報の取組状況について

（２）県民との意見交換

○ 開催日　令和７年 11 月 13 日
○ 場　所　城崎文芸館会議室
○ 概　要　観光振興について、城崎温泉観光協会と意見交換をした。
○ 主な意見等
・豊岡観光ＤＸ推進協議会への旅館加入率や会員に共有されるデータの内容について
・インバウンド増加に伴うオーバーツーリズム、人手不足、２次交通等の諸課題について
・カニがない時期に城崎を訪問するインバウンド観光客の目的やニーズについて
・タトゥー・フリーの反響について

・ＤＸ化に伴う旅館等への教育機会の確保や相談対応について
・ＤＸ化による旅館の経営の合理化への効果について
・飲食店や土産屋等を含めた観光客データの取得、利用について

（３）有識者等からの意見聴取

○ 実施日　令和８年１月 16 日
○ 場　所　第４委員会室
○ 概　要　独立行政法人経済産業研究所の堺井啓公国際・広報ディレクターから、「大阪・関西万博後における観光振興による地域経済の活性化」について講演を受けた後、質疑応答を行った。
○ 質疑応答の内容
・淡路島の国生み神話、地域の偉人等の歴史、文化を生かした観光コンテンツの高付加価値化について
・大阪観光局と連携したデジタルトラベルゾーンの導入に係る他府県の考えについて
・有償ローカル・スルーガイド育成にかかる国内外の成功事例について
・地域のファーストペンギンをえこひいきすることの具体例について
・ＩＲ法に規定される送客すべき地域の範囲について
・有償ローカル・スルーガイド育成に向けた育成体制や人材像について

（４）事例調査（特定テーマに関する主なもの）

①　管内調査（令和７年７月24日～７月25日：阪神地区）

ア　神戸新開地・喜楽館

（主な意見等）
・インバウンドの状況について
・こどものコミュニケーション不足解消に向けた小学校との連携について
・現在のＳＮＳ時代を踏まえた落語の有料動画配信について
・落語に触れる機会の拡大に向けたインターネット活用の在り方について
・地元小中高生が落語に触れる機会がない現状及びその機会創出の必要性について

イ　白鶴酒造資料館

（主な意見等）
・白鶴酒造資料館においてベトナム人観光客が多い理由について
・神戸ワインに関する取組状況について
・若者のアルコール離れの状況やその対策について

②　管内調査（令和７年９月１日～９月２日：西播地区）

ア　峰山高原

（主な意見等）

・スキー場整備当初から現在までの維持管理、修繕等に係る神河町との費用負担の割合について
・スキー場整備当初における神河町議会の対応について
・地域経済への波及効果について
・峰山高原スキー場の成功、過密化の現状を踏まえた他スキー場への誘導・連携について
・ターゲットとしている顧客の属性や地域について
・外国人の利用状況について

③　管外調査（令和７年10月28日～10月30日：福岡県、熊本県）

ア　福岡県議会（観光振興課）

（主な意見等）

・ビッグデータ調査の予算、個人情報の取扱、事業者、契約方法、期間等について
・他府県と比較した延べ宿泊者数の分析状況について
・ビッグデータ活用における課題と今後の取組について
・市町との連携、市町独自の取組、県内の面的な取組等に対する考え方について
・県内周遊促進の対象者（日本人に限定するのか外国人も含めるのか）について
・県内多自然地域への誘客を促進するに当たり県内市町の産業連関表の作成状況や県による指導状況について

イ　太宰府市（観光推進課）、太宰府天満宮

（主な意見等）

・駐車税の税収や使途について
・更なる観光税導入の検討状況について
・観光客の交通手段について
・ホテル事業を手掛ける株式会社太宰府Ｃｏ－Ｃｒｅａｔｉｏｎの今後の取組について
・観光産業に関わる市民の割合について
・オーバーツーリズムにおける住民の不満解消に向けた取組について
・外国人観光客に菅原道真の人物像を分かりやすく発信する取組について
・太宰府天満宮を生かした西日本鉄道沿線の活性化や周辺自治体への広がりに向けた取組について
・コンパクトシティ化に伴う西日本鉄道沿線や福岡県内の人口移動の状況について

ウ　熊本市議会（観光政策課）

（主な意見等）

・民間と行政との観光施策の違いについて
・観光資源となる重要文化財や史跡等の復元におけるバリアフリー化の課題や工夫

点について
・観光消費額の算出方法や観光客へのアンケート調査について
・ナイトタイムエコノミーの推進における住民へのデメリットについて
・台湾からの観光客誘致の今後の見通しについて
・オーバーツーリズムへの対処や民泊に関する問題等について
・観光マーケティング戦略のＫＰＩの設定根拠と今後の取組について

④　管内調査（令和７年11月12日～11月14日：但丹地区）

ア　丹波伝統工芸公園　陶の郷、最古の登り窯

（主な意見等）
・丹波立杭焼における原材料や人材等の地域内循環について
・成分分析等における県立工業技術センターとの連携状況について
・大阪・関西万博による観光客数増減等に関する影響について

イ　一般社団法人豊岡観光イノベーション

（主な意見等）
・地域版ＯＴＡにおける大手ＯＴＡとの差別化や課題について
・Ｖｉｓｉｔ　Ｋｉｎｏｓａｋｉ．ｃｏｍのシェアについて
・Ｖｉｓｉｔ　Ｋｉｎｏｓａｋｉ．ｃｏｍにおける城崎以外の掲載状況について
・ベジタリアン、ヴィーガン等への対応について
・マーケティングカレンダーの仕組みについて
・ＤＸ推進体制や人材育成・確保について
・外国人スタッフについて
・価格変動が大きい海外ＯＴＡと比較した地域版ＯＴＡでの価格設定の考え方について
・Ｖｉｓｉｔ　Ｋｉｎｏｓａｋｉ．ｃｏｍの理想のシェア率について
・システム開発等の費用や地元自治体の負担金の状況について
・但馬空港の今後の在り方について
・令和７年の外国人観光客延べ宿泊者数の見込みについて
・外国人へのＰＲにおいて重視している点について
・関東方面からの観光客の交通ルート、周遊ルート、泊数等について

ウ　香住鶴株式会社

（主な意見等）
・設備投資にかかる経営判断や導入経緯について
・県等行政の支援策の活用状況について
・今後の海外展開の考え方について

エ　城崎温泉観光協会（再掲）

オ　柏原加工紙株式会社

（主な意見等）

・エアーリングペーパーの立ち上げの経緯について
・ひょうごフィールドパビリオンへの登録の経緯について
・エアーリングペーパーの緩衝力や顧客からの要求について
・県立工業技術センターやものづくり支援センター但馬との連携状況について
・加工紙の付加価値率について
・創業のきっかけについて
・紹介動画に英語字幕を入れることによる外国人へのＰＲについて
・中長期的な展望について
・エアーリングペーパーという製品名をつけた理由について
・国内唯一の糸入り加工紙の故障時の対応について
・若手の育成や職人から若手への技術継承について
・ひょうごフィールドパビリオンの経験を生かした観光事業の展開や丹波地域内の他社との連携について

⑤　管内調査（令和８年１月28日～１月29日：東淡地区）

ア　道の駅うずしお

（主な意見等）

・代表取締役の経歴について
・会社の正規職員・パート職員の割合について
・会社の成り立ちについて
・道の駅うずしおにおける建物の建設について
・周辺道路の渋滞対策について
・淡路人形座と教育について
・淡路人形座とインバウンド対策について
・淡路人形座に訪れる観光客の属性、消費単価について
・道の駅うずしおに訪れる観光客の属性、消費単価について
・淡路に訪れる観光客が本施設を目指すルートについて

３　まとめ

１　現状と課題

（１）日本国内における観光の動向

国の観光白書によると 2020 年の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全世界における観光需要は大きな落ち込みを見せた。それに伴い全国の観光関連産業は経営的に厳しい状況に置かたが、2022 年の国の水際措置の大幅緩和などにより需要は大きく回復し、2023 年以降、インバウンドなどの訪日旅行需要が大きく国内観光産業に寄与している。

訪日外国人旅行者数は、2019年までは、ビザの戦略的緩和や外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充などの施策や鉄道などの各種交通機関の充実強化、外国語対応などの受入環境整備、国等による訪日プロモーション等により、過去最高を記録したが、訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年間を通じて大きく減少した。

2024年の訪日外国人旅行者数は韓国・中国・台湾などのアジア主要市場からの訪日外国人旅行者数が2,906万人となり、全体の78.8％を占めており、韓国が882万人、中国698万人、台湾604万人、香港268万人と続き、全体の66.5％を占めている状況である。

2024年の日本人及び訪日外国人旅行者による日本国内における旅行消費額は、34.3兆円で、このうち、日本人による旅行消費額は26.2兆円である。訪日外国人旅行者による旅行消費額は8.1兆円と旅行消費額に占める割合は23.7％となっている。

また、2024年の日本人の国内延べ旅行者数を目的地別にみると、関東が１億6,542万人（全体の30.7％）、近畿が8,265万人（同15.3％）、中部が7,044万人（同13.1％）となり、３地域で全国の延べ旅行者数の59.1％を占めている状況である。

（２）兵庫県における観光に係る現状と課題

①　兵庫県における観光の現状

兵庫県における県内観光入込客の現状であるが、新型コロナウイルス感染症の５類移行等により、令和６年度観光入込客数は１億 2,529 万人(前年度比 102.4%)で、令和元年度と比べて９割程度まで回復している。県内観光消費額の状況であるが、令和５年度県内観光消費額は「兵庫デスティネーションキャンペーン」による県内宿泊施設と連携した宿泊プランの造成等の取組の影響で１兆 5,677 億円（前年度比 137.2%）と大きく増加している状況である。なお、令和６年度の観光消費額は１兆 5,059 億円（前年度比 96.1%）となっている。また、訪日外国人旅行者の状況としては、令和６年の本県の訪日外国人旅行者数はコロナによる制限がなく、円安などの影響もあり 1,949 千人（令和５年比+31.1%）となり、全国の伸び率（令和５年比+47.1%）には及ばないものの大きく増加している状況である。

②　兵庫県における観光の課題

ア　インバウンド延べ宿泊者数は増加しているものの、その伸び率は全国平均+41.4%に対して本県は+12.3％と伸びていない状況がある。また全国平均泊数 1.43 泊に対

して本県は1.25泊と全国でも下位の状況にあり、インバウンドに限っても全国平均1.80泊に対して本県は1.45泊と低い状況となっている。

イ　インバウンド観光消費単価が全国第43位、消費内訳別にみても特に団体･パック旅行参加費や宿泊費、娯楽費の単価が全国でも下位の状況となっている。

ウ　日帰り観光の比率が高い本県観光を打破する取り組みを各県民局などの行政機関や複数のＤＭＯ、ＪＲなどの民間企業がバラバラで実施していることや入込客の行動パターン、消費動向などのデータ収集がほとんどされていないことやデータ収集、情報発信においてＳＮＳの活用がほとんどされていない、遅れていること、加えて神戸空港の国際定期便に向けた受け入れ態勢におけるハード・ソフト両面の整備などが考えられる。

２　今後の方向性

国内及び海外の観光客の誘客を図り、ひいては観光産業の活性化を図るための今後の方向性について、産業労働常任委員会における議論や管内・管外調査、そして有識者との意見交換等をもとに、必要と考えられる取り組みを下記のとおり取りまとめた。

（１）観光客の誘客及び観光消費額拡大のためのコンテンツ整備について

①　ゴルフ場を核とした観光産業の活性化

多くのゴルフ場が立地する兵庫県の特性を活かしゴルフ場を地域観光資源として位置づけ、宿泊・温泉・食事など周辺施設とのパッケージ化の推進やゴルフと地域体験（文化体験、自然散策）を組み合わせたプランの造成に対する支援を行うなど、滞在型観光の促進を支援すべきである。加えてゴルフ大会などのイベントを誘致し、国内外からの集客を強化することによりゴルフ場を核とした地域経済及び観光産業の活性化を図るべきである。

②　芸術文化観光専門職大学と連携した観光振興の推進

芸術文化観光専門職大学との連携に努め、大学の専門知識や人材とともに地域の芸術文化資源を観光コンテンツとして磨き上げる仕組みの構築を検討すべきである。加えて、インターンシップや人材育成プログラムの作成支援を行い、観光産業に即戦力となる人材を地域に定着させることにより持続可能な観光振興を図っていくべきである。

③　オーバーツーリズムの解消と兵庫県への誘客

京都府、大阪府などの観光地で問題となっているオーバーツーリズム解消のため、観光客の分散を促進する仕組みを構築が重要である。そのため、兵庫県の観光地の積極的なＰＲに努めるべきである。加えて地域間連携による広域観光ルートの開発や、宿泊・交通のパッケージ化で滞在先の分散化を図り、兵庫県の観光地の魅力をPRしつつ、地域全体のバランスある発展を目指すべきである。

④　ナイトタイムエコノミー強化による宿泊率及び消費額の向上

兵庫県における観光客の消費単価を向上のため、宿泊促進とナイトタイムエコノミーの強化とあわせてお土産消費額の向上を図るべきである。具体的には、ホテルなどの宿泊施設の誘致を進め、観光客が日帰りではなく滞在できる環境整備に努める。加えて夜間の飲食・エンターテインメント等を充実させ、地域の魅力を夜まで楽しめる仕組みを構築し、ＳＮＳなどを通じたＰＲをより一層行うことにより、宿泊率と消費額を向上させ、地域経済の活性化を図るべきである。

⑤　ひょうごフィールドパビリオンを活用した観光産業の活性化

ひょうごフィールドパビリオンを地域観光の核として活かすため、県内各地の特色ある体験型プログラムを体系化し、県が強みとする生産地、加工地そして消費地を一体的に体験することができるような広域周遊モデルの構築を推進すべきである。さらに民間企業などとも連携し、ガイドの人材育成や多言語対応を支援に努め、インバウンド需要を強力に取り込んでいくべきである。また、ひょうごフィールドパビリオンを活用したイベントを誘致し、地域ブランドの発信力の強化も図るべきである。

⑥　観光産業振興のためのロケツーリズム誘致の推進

ロケツーリズム推進のため、映画・ドラマ・CM などの撮影誘致や地域資源を活かしたロケ地候補の発掘、宿泊・交通・飲食などの受け入れ環境整備に取り組むべきである。また、ロケ地巡りや関連イベントの企画に対する支援を行うことにより観光客の誘致と地域経済の活性化を図ることも必要である。

⑦　地域の祭りや伝統芸能との連携による観光振興の推進

地域の祭りや伝統芸能の魅力を国内外に発信し、加えて観光客が実際に体験できるプログラムやガイドツアーの開発支援、宿泊や食事と組み合わせた周遊型プランの造成支援を行うことも検討すべきである。また、祭りの開催時期に合わせた交通・宿泊支援により地域文化資源を核とした観光振興と地域経済の活性化を図っていくことも重要である。

⑧　酒蔵を観光資源として活用した観光振興の推進

県内に多く立地する酒蔵を観光資源としてより一層活用すべきである。そのために、県内酒蔵を巡る広域観光ルートの造成支援や宿泊・食事・文化体験と組み合わせたパッケージツアーへの支援を行うべきである。加えて、海外向けプロモーションや多言語対応を強化し、インバウンド需要を取り込みにも努めるべきである。

⑨　スキー・スノーボードを目的とした外国人旅行者の誘客

スキー・スノーボード目的の外国人旅行者を誘客するために、国際的なプロモーションを強化し、ＳＮＳや旅行サイトを活用した多言語情報発信を行うべきである。加えて

空港からスキー場までの交通アクセス改善やシャトルバス運行を支援し、利便性確保にも努めるべきである。これにより、兵庫のスキー場を国際的な魅力ある観光拠点として発信し、観光客の増加と地域経済の活性化を実現すべきである。

⑩　県立文化施設との連携による観光産業の活性化

県立美術館や県立芸術文化センターを観光資源として活用するため、芸術文化施設を核とした広域観光ルートの造成支援を行うとともに、宿泊・食事・周辺観光と組み合わせた滞在型プラン造成の支援も行うことが重要である。加えて、国内外の著名な展覧会や音楽イベントを誘致し、ＳＮＳや動画配信を活用したプロモーションの強化を図ることで文化体験型観光の拡充を図っていくべきである。

⑪　サイクルツーリズムの推進

アワイチ（淡路島一周サイクリングルート）などを活用したサイクルツーリズムを推進するため安全で快適なサイクリング環境の整備や休憩施設、レンタサイクル拠点の整備に対して支援していくべきである。あわせて、国内外へのプロモーションを強化し、イベントや大会の開催を通じて交流人口を増やし、サイクルツーリズムを核とした観光モデルの構築を図るべきである。

⑫　兵庫県の文化・歴史・伝統等の観光への活用

表面的な景色・景観の美しさや食べ物が美味しいなどの「売り」にとどまらず、兵庫県の文化・歴史・伝統等の価値に、より来県者が目を向けてもらえるような取り組みが重要である。

（２）観光振興施策推進に係る情報分析について

①　クレジットカード等の情報を活用した観光消費動向の分析

支援策や政策の方向性を考える上で、ＳＮＳやクレジットカード情報などのデータを出身国（地域）、年代、性別などでカテゴライズした上で、観光消費動向を精緻に分析して現状を知るべき。その現状を踏まえた課題を解決していくための支援策にしていかなければ今までの繰り返しとなる。

②　産業連関表を活用した経済効果の分析

観光が地域経済に与える影響を明確化し、地域産品の付加価値向上や地元企業との連携促進を図り、観光を核とした産業振興策の立案に資するために、観光消費の経済波及効果を定量的に分析できるよう観光客の地域への支出を、産業連関表を活用して分析する取り組みを進めるべきである。

（３）観光産業を支える人材、情報に対する支援について

①　観光産業の人材不足対策の推進

専門学校や大学との連携により観光人材育成プログラムを整備し、接客スキルやデジタル活用能力の強化、外国語対応やインバウンド接客研修などによる即戦力人材の確保の取り組みへの支援を図っていくべきである。これにより、観光産業の生産性向上と持続可能な人材確保を図り、県として、観光産業の人材不足対策を推進していくべきである。

②　観光ＤＸの更なる活用

観光客の動向のＡＩやビッグデータによる分析や混雑予測や回遊促進策の策定、宿泊業における生産性向上のための業務自動化やキャッシュレス決済など観光ＤＸに係る取り組みに対する支援を進めるべきである。

（４）観光振興を含めた国際交流の推進について

①　国際交流の推進

海外対象の観光振興にあっては、国際交流や友好親善の視点も併せて対応することが必要である。特に友好・親日国への対応を重視していくことを検討していくべきである。

②　神戸空港の国際化を踏まえた海外へのアピール

神戸空港の国際化の流れを踏まえ、韓国、台湾などに観光施策の重点を置くことも検討するべきである。